

パリDAC通信

(DACメンバーの国際機関を通じた援助～国際機関を通じた援助の援助効果向上)

DACは、DACメンバーの国際機関を通じた援助に関して報告書を取りまとめることとなりました。

■DACメンバーの援助の約4分の1は国際機関を通じた援助

2006年のDACメンバーによるODA額の約4分の1が国際機関を通じた援助でした。この割合は、1987年から2006年までの間、27%から32%の間ではほぼ一定となっています。さらに、この他にも、DACメンバーはセクターや受け取り地域・国を指定した国際機関への拠出を行っていますが、これらはDACの統計上は二国間援助として計上されているため、上記の数字には含まれていません。これらも含めるとDACメンバーのODAのおよそ35%が国際機関を通じて実施されています。

■国際機関を活用するDACメンバー

個別のDACメンバーでは、イタリアが72%である一方、アメリカが12%などと国際機関を通じた援助の割合には大きな開きがありますが、多くのDACメンバーが国際機関を活用する理由として、規模の経済、ノウハウ、政治的中立性、途上国への負担の軽減などをあげ、さらにほとんどのDACメンバーは、国際機関を通じた援助においても貧困削減とMDGの達成を一番の目的として掲げています。また様式や焦点は様々であるものの、DACメンバーの約半分が国際機関の活用についての包括的な戦略を有しています。

■国際機関の「増殖」と援助の「断片化」

DAC統計でODA適格とされる国際機関は約263に上ります。これは、1960年には47機関でしたが、その後増加の一途をたどりました。このうち、EC、IDA、グローバルファンド、アジア開発銀行、アフリカ開発銀行の5機関が国際機関への拠出額の3分の2を受け取る一方、年間2000万ドル以下しか受け取っていない機関も100以上存在します。二国間援助ほどではないにせよ、国際機関の「増殖」とその援助の「断片化」も課題とされています。

■パリ宣言、AAAが呼びかける国際機関の援助効果向上

2005年に採択されたパリ宣言には25の国際機関が署名し、2008年に実施された第2回パリ宣言モニタリング調査では、国際機関はいずれの指標においても二国間ドナーを上回る実績を達成しています。2008年のアクラハイレベルフォーラムで採択されたAAAでは、国レベルでの援助の分業の好事例原則を策定すること、および国際レベルでの援助の分業に関する対話を2009年までに開始することがコミットされており、国際機関のより一層の関与を得た援助効果向上の取組が今後期待されています。